

# 東京電力は、 漁業者への約束を守れ！

## 東京電力が、汚染水の海洋放出計画を申請！

昨年 12 月 21 日、東京電力は、福島第一原発のタンク群に溜まり続ける約 130 万トンもの汚染水を海に放出するため、設備の設計などの実施計画の審査を原子力規制委員会に申請しました。放射性物質のトリチウムなどが残る汚染水（処理水）を、海水で薄め、海底トンネルを通して 1 キロ先の沖合から海に放出するという計画です。

この計画には、福島・茨城をはじめ、多くの漁業者が反対の声をあげています。また、福島県の自治体の首長の 7 割が「容認できない」「どちらかと言えば容認できない」と答えており、「容認できる」と明確に回答した首長はいませんでした（21 年 5 月・朝日新聞調べ）。

## 漁業関係者の理解なしに海洋放出しないと、はっきり約束していた！

2015 年当時、東京電力は、漁業関係者の理解なしに海洋放出はしない、とはっきり約束していました。ところが、汚染水の処理方法を検討するために経済産業省が設けた「ALPS 小委員会」の報告書をたてに、海洋放出の方針を打ち出したのです。2018 年の

公聴会では、漁業者から海洋放出に強く反対する声が上がられました。それでも東京電力は、約束破りの海洋放出に踏み切ろうとしています。

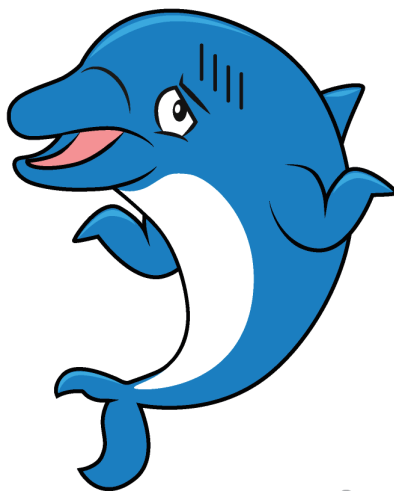
福島や周辺の漁業者は、福島第一原発の大事故の後、まったく漁ができない状態から努力を重ね、少しずつ漁業を回復させてきました。汚染水（処理水）の放出は、この 10 年以上の努力を踏みにじるものです。

## 取りきれていなかった！

### トリチウム以外の放射性物質

政府は、風評被害があれば補償する、とっています。しかし、漁業者が望んでいるのは、豊かな海で漁業を続けることです。そして、東京電力が、貯められた汚染水の汚染状況をまともに説明しなかったことも、不信感に拍車をかけています。

東京電力は、タンク群に貯められている汚染水（処理水）は、処理装置（ALPS）を通していているので、水と同じ性質を持つトリチウムしか含まれていないと説明し、処分方法を検討する「ALPS 小委員会」にも、そういうデータだけを出していました。ところが 2018 年に、報道機関のスクープによって、貯めてある汚



<裏面に続く>

全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL 045-575-1948  
yuniyoko.sakura.ne.jp

染水の約7割に、トリチウム以外の放射性物質が取りきれずに残っていることが明らかになったのです。残っているストロンチウムやセシウムなどの濃度が、放出基準（「告示濃度比」の総和1）をはるかにこえ、最高で1万9,909倍になっているタンクもあります。

トリチウム以外の放射性物質が含まれている汚染水（「処理途上水」と呼ぶ）はもう一度浄化装置（ALPS）にかけ、放出基準以下にする（「ALPS処理水」と呼ぶ）と言っていますが、サンプルで実験しただけで実際にうまくいくかもわからず、トリチウム以外の放射性物質も海に放出されることに変わりはありません。

## トリチウムの分離方法も開発中 地上保管などの方法で汚染を防げ！

いくら薄めるといっても、放射性物質が減るわけではありません。間違って濃度の高い汚染水が放出される事故も考えられます。

トリチウム自体の危険性も指摘され、海外からも反対の声が上がっています。地上保管を続けながらトリチウムの分離方法を開発したり、「大型タンク貯留案」や「モルタル固化処分案」にするなど、海に流す以外の方法も、具体的に提案されています。【組合員N】

**海洋放出は漁業者を犠牲にし、  
汚染を拡散させるだけです。  
私たちは断固反対します！**

### ■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員だった長尾光明さん(故人)は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010年4月）。

### ■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

### ■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！